



Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」
Citation	, 82, 1-24
Issue Date	1991-07-01
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/66464">http://hdl.handle.net/2115/66464</a>
Type	periodical
File Information	yuin82.pdf



[Instructions for use](#)



# 輪 蔭

Yuin

北海道大学附属図書館報

## 目 次

○HINES に図書館の電子掲示板設置…………… 1	○図書館統計 平成2年度……………10
○図書館員クワイロフ	○ニュース……………16
附属図書館事務部長 宮島太郎………… 2	○刊行物案内……………19
○資料紹介	○受贈図書……………20
「無量寿経」の梵文写本	○会 議……………20
文学部教授 今西順吉 …… 7	○図書館委員及び教養分館委員名簿……………22
○遡及入力第一期計画達成…………… 9	○人事往来……………23

### HINES に図書館の電子掲示板（テスト版）を設けました

この5月1日からHINESの第2年次システムのひとつである電子掲示板が使えるようになりました。図書館では現在HINESの図書業務への利用方法を検討している段階ですが、とりあえず電子掲示板の利用を試行することにしました。図書館にはまだデータアダプタが設置されておらず、外部データベース検索用の公衆回線を兼用で使用するため〔テスト版〕としました。掲載項目等にばらつきが生じるかも知れませんが、記載内容は正しいものです。是非ご利用ください。今後皆様のご意見等をいただきながら平成4年4月に予定している正式サービス開始に向けて努力したいと思います。

#### 公用掲示板 No. 10 図書館公用掲示板 [o. library]

図書館の利用案内など図書館の広報記事を掲示  
利用者の書き込みは出来ません

#### 公用掲示板 No. 19 図書館公開掲示板 [o. library. reference]

文献・事柄についての質問・回答などを掲示  
利用者の書き込み自由です

## 図書館員クルイロフ

附属図書館事務部長 宮 島 太 郎



72才のクルイロフ カ・ブリュホロフ画

ロシアの寓話作家クルイロフ (Крылов) の名は日本ではあまり知られていない。まして彼がわれわれと同じ図書館員であったことを知っている人はさらに少ないと思う。

クルイロフ、名はイワン (Иван)、父称はアンドレービッチ (Андреевич)、1769年トベリ (現カリニン市: モスクワの西北約150 km) に生まれた。父親アンドレイ・プロホロビッチは叩き上げで大尉になった、信念のある、思慮深い人物であった。プガチョフの乱に戦功があったといわれるが、不遇のうちに退官しトベリで役人をしていたが、クルイロフが数え年で10才のとき死んでいる。子供の教育に熱心で自らも読書を好み多くの本を持っていた。本を買うために無駄な出費はせず、遊びもほとんどしなかったという。プガチョフの乱を主題にしたプーシキンの小説「大尉の娘」のミローノフ大尉にはアンドレイ・プロホロビッチ

の性格が投影されているといわれている。母親マリア・アレクセブナは無学ではあったが、頭のよい婦人であった。

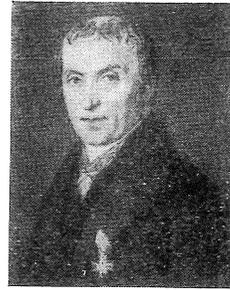
父親の死後貧しい家計を助けるため、トベリで書記補として勤務しながら、読書好きの少年はモスクワから来た劇団の喜劇を見て触発され、当時話題になっていたコーヒー占にヒントをえて「コーヒー占の女」を書いている。数え年14才のときのことである。翌年すでにペテルブルグにいた彼はこの作品に手を加え、印刷工場主のブレイトコプフに売り込み、60ルーブルを得、これが機縁となって次第に文筆活動に従事することになる。彼はこの時ラシーヌ、モリエール等のフランス作家の著作を稿料に見合う分欲したといわれている。

ロシアでは1783年にエカテリナII世が個人の印刷所の開設を許可したこともあって、出版事業が活発になり、多くの自由主義的思潮の雑誌が発行され始める。彼も反権力的色彩の強い「精霊通信」「観察者」「ペテルブルグ通報」を発表し自ら風刺的作品を発表している。これらの行為がエカテリナII世の不興を買い1793年にペテルブルグを退去する羽目になる。同じく自由主義的な思想家ラディシェフ (А. Н. Радищев) は1790年に、ノビコフ (Н. И. Новиков) は1792年に、それぞれ逮捕され、投獄されている。

時は過ぎ去りアレクサンドルI世治下の1806年クルイロフは13年の放浪の末再びペテルブルグに戻ってくる。放浪中も文筆活動を続けていた彼の名はペテルブルグで上演された「ファッション・ショッブ」(初演1806年)で一躍有名となる。彼が後に図書館員となる契機となったオレーニン一家と知り合うのもこの時期である。オレーニンは図書館員クルイロフを生んだのみでなく、設立間もないペテルブルグ公共図書館の確立と発展に大きな貢献をした人物である。オレーニンについても少々触れておきたい。

オレーニン (Алексей Николаевич Оленин 1763-1843) は古い家系を誇る貴族の家に生まれた。リリパットとも渾名されるほど背が低かったが、敏捷で、また非常な秀才であった。1780年には貴族幼年学校で唯一人ドレスデン砲兵学校に留学を命ぜられている。その地で歴

史、考古学、絵画、建築学に親しんだという。1785年帰国、砲兵大尉、26才で中佐、1791年28才で結婚。新婦エリザベタ・マルコブナは聡明で善良な世話好きの美人であった。結婚してオレーニンは客人を招待し始める。これがクルイロフも毎日のように入り浸ったオレーニンのサロンである。オレーニンのサロンには多くの文化人、貴顕が集まり、グレチによれば「科学、芸術、文学の殿堂」であった。1808年45才でペテルブルグ公共図書館の副館長、1811年47才で館長となる。



＜オレーニン＞

公共図書館の設立は1795年のことで、蔵書の基礎となったのはポーランドより戦時賠償として得たザルスキー兄弟の約40万冊にもほる図書であった。ロシアでは科学アカデミーの図書館(1714)、モスクワ大学図書館(1756)がすでに設立されていたが、一般人が自由に利用できる公共図書館がなかったため18世紀初頭から設立の要望が出されていた。1801年には建物が完成し、1812年には皇帝から開館の許可が下りたにも拘らず、1812年のナポレオンの侵攻のため延期され、1814年1月2日にやっと開館にこぎつけ式典が盛大に行われた。この式典ですでに館員であったクルイロフは寓話「潜水夫」を朗読している。

開館当初25万冊を越えていた公共図書館には目録が存在しなかった。オレーニンは分類順の配架が目録に優ると信じ、図書館員の記憶と頻繁な図書点検により迅速な図書の提供が可能と考えていた。現在の感覚からすれば奇異に感じられるが、当時は普通のことであつたらしく、19世紀中頃に西欧の図書館事情を視察した公共図書館の一図書館員もこのことに触れ「良い目録を持たず、図書館を良く知っている図書館員に管理されている図書館の運命を考えると、図書館員が自然の絶対法則により図書館に居なくなった時のことを考え、心配せざるを得ない」と記している位である。オレーニンは公共図書館のために世界各国の30以上の分類を研究し、そのいずれにも満足せず、自分で作成したといわれる。彼の分類配架システムは、科学、芸術、文学・哲学の三分野が主類で363項目に細分され、さらに言語別、大きさに分かれ、同じ大きさの中では、著者・書名順配列されており、それ自体一種の目録を形成していた。ソ連邦の著名な図書館学者シャムーリンはオレーニンの分類を当時のヨーロッパにおける最も進んだ分類の一つに数えている。

目録は不要(実際にも開館して暫くの間は支障なかったといわれる)とのオレーニンの考えにも拘らず、皇帝アレクサンドルI世は印刷目録の作成を強く希望し、そのためオレーニンは目録記入規則制定のために1818年「目録編成及びその形式」について、11項目の質問を館員に発している。この11項目についてしばしば館員の集會が持たれているが、これはロシアにおける初めての図書館学のディスカッションといわれている。

すでに1809年彼の指導の下に制定された規則と合わせて、公共図書館は当時におけるロシアの目録作成実務の上で指導的な役割を演じていたといわれるが、その功績はオレーニンに負うところが大きい。彼は図書館業務の全般に亘り陣頭指揮をとっていたが、一々紹介するには紙面が足りない。ただ彼が図書館員の仕事について述べた言葉を紹介しておきたい。「私は長い経験から、図書館員の機械的な仕事の単調さと重労働を知っている。彼らは毎日数時間もぶっ通しで仕事をせねばならない。健康に有害な埃を間断なく呑込み、本の移動に疲れ果て、また合冊製本された内容の異なる著作を切り離し、そのために特殊な用具を使い、各冊毎に表紙をつけ、古い背表紙を書き直す、そんなことに自分の時間を費やす。ザルスキーの本の殆ど全てがこのようなものである。一言で言えば、学者には面白くもなく、人々には些事に思える



<観兵式場で>

ゲ・チエルネソフ画・1832年 左から右へ、クルイロフ、ア・エス・プーシキン、ヴェ・ア・ジュユーフスキー、エヌ・イ・グネディチ

ことだが、欠く可からざる仕事なのだ。その仕事は図書館員が他人に委せられないものであり、誰も注意を払わないことなので、図書館の直接の責任者にとっては、一層尊敬に値するのである。」200年前も、現在もあまり変わらぬ司書の業務と図書館長の悩みであろうか。クルイロフはこのような館長の下に働いていたのである。

寓話作家としてのクルイロフの声価が相当高いものであったことは疑いない。1826年版の彼の寓話集は驚くべし61万部も発行されている。もっとも、彼の生前の出版物の総部数が、当時としては驚異的な7万7千部との説もあるが、人気作家であったことには変わりはない。また、1832年書籍商スミルディンの店舗移転に際して、ペテルブルグの文学者の晩餐会が開かれたとき、乾杯の第一声が皇帝に、第二声が彼のために発せられたことでも知ることができる。この席にはプーシキンも出席していた。因にこのスミルディンは原

稿料を枚数に応じて支払ったロシアで最初の人物と言われている。

それに反し図書館員としての彼の評価は一様ではない。「夏の暑い最中、利用者がいないとき、重要な仕事のないときは長椅子で読書にふける」、「図書館はクルイロフにとって休息の場所となった。彼は出勤し、長椅子に本を片手に横になり、読書を中断されると不機嫌であった」、「聞くところによると食事のあと勤務につくと、彼は大抵長椅子に横になり、本を読んでいた。利用者がくると起き上がらず、書棚と本を指し示し、必要なものを取るように頼んだ」(図書館員ソボリシコフの話)等々、怠惰な図書館員としての彼の姿が伝えられている。偉大な寓話作家が勤勉な図書館員でなければならぬ理由は少しもないが、果して本当の姿なのであろうか。

彼は1812年1月に公共図書館のロシア語部門に司書補として採用されている。オレーンは採用申請書に「クルイロフは名だたる才能とロシア文学における秀でた知識により図書館にとり大いに有用である。」と述べている。この言葉を裏付けるかのように、オレーンは入館3日後の彼にロシア語部門の歴史書と文学書の注解推薦目録の編纂を命じている。当時ロシア語部門にどの程度の冊数があったのか不明であるが、1808年には僅か4冊であったし、1814年の開館時には2,300余冊というから、2,000冊未満であったろうし、またその一部分であるから実際の冊数は大したことはない。彼は編纂に手をつけたが投げ出している。ナポレオン侵攻の噂もあり、仕事どころではなかったかもしれないが、彼の怠者ぶりを示す挿話となるかも知れない。

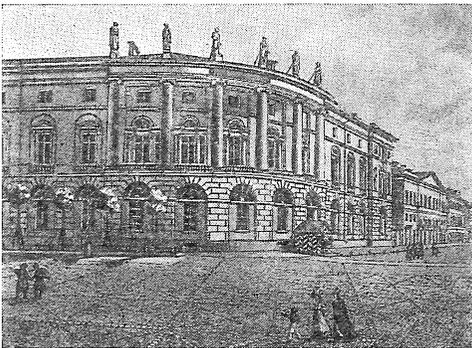
彼はロシア語部門の相棒サピコフと共に主として1811年～14年に受け入れた図書の日録を編纂しているが、この中で演劇、詩等のジャンル別の記入と、団体著者記入を試みている。さらに彼が1814年に編纂した公共図書館の著者索引でも団体著者記入を試みている。因に、団体著者記入の原則が一応確立されたのは1841年の大英博物館の規則によってといわれている。相棒のサピコフは著名な書誌学者で、1489年から1813年にかけて刊行された13,249点の図書・雑誌の注解目録「ロシア語書籍解題の試み」は名著として知られる。クルイロフは目録の備えるべき要件として、1)必要な図書を利用者が探し出し、正確に記入できること、2)図書館

員がすばやくその図書を蔵書中に発見できることの2点を挙げている。当たり前すぎることだが、当時の事情が現在とは違うことを考慮しなくてはならない。その第1は当時の目録には請求記号がついていなかったことである。請求記号で図書を借り出すことができなかった。第2は貸出の方法である。貸出請求の際、現在のように館員と利用者間にコミュニケーションがなかった。利用者は図書館備え付けの帳簿に希望図書名を記入し、翌日出かけて図書を受け取る仕組みになっていた。書名が不正確だと図書が探し出せず、利用者は何回も足を運ぶことになるのである。更に彼は「検索は図書館員の経験、または〈長期間の〉勤務にではなく、目録上でも書架上でも、図書の検索方法の良否に左右される。目録は新任の館員が上手に利用できるよう編成されなくてはならない。故に目録を図書の内容により大別し、その中で著者でなく書名で配列する。読者は著者名より書名をよりよく覚えている。」書名基本記入は現在のNCRの考えである。オレーニンの考えとは違っているが実務的な方法である。更に彼はロシア語部門では一種の請求記号を採用し利用者の便を計っていた。公共図書館で請求記号が実用に供される1840年代の20年程も前のことである。

当初のロシア語部門の蔵書は貧弱で、特に1811年以前に刊行された図書にその傾向が強かった。彼は蔵書の充実に心がけ、退官する1841年には約3万冊を収集したといわれる。彼の1928年のオレーニンへの報告では、上記のロシア語の図書を収集する必要は少なくなったと述べられている。そんな彼にとって1828年の検閲法により公共図書館への納本冊数が2冊から1冊になったことは不満であった。「私は常に本を2極端でみる；完全に売り切れるか、または全く売れないか。前者の場合は小銭を失うのみ、後者は包み紙に経費がかかるだけである。いかに多くの著者が自分の著作を、偉い人、知人、友人にさえ配っていることか」と述べている。いかにも寓話作家らしい言い分である。

彼の書誌的事業の一つとして書籍に火災保険をかけるための評価額算定の仕事がある。1829年公共図書館は火災の危険があるとして図書に火災保険をかけることを決定し、ロシア語部門はクルイロフに算定を命じた。彼はスミルディンの書籍目録などを参照し、約1万部の図書の総額を15万ルーブルと推計し報告している。然し保険会社は1冊毎の評価を要求したため新たにつくり直す必要に迫られた。オレーニンへの報告には次のように述べられている。「多くの図書はスミルディンの目録になく、サピコフの目録に表示されている価格は30年以上も以前のものであり、図書の希少価値から言っても現在の価格には合致しません。その上多くの図書は両目録になく、そのため他の目録を参照せねばならず時間がかかっております。同様に、製本に要した費用の算定も短期間では不可能ですが、適切な情報を迅速に集め、遅滞なくご指示を遂行すべく努力します」この結果がどうなったかは明らかではない。いずれにしても大変な作業であることは言うまでもない。以上トピック的なことを2・3紹介した。彼の日常の職務内容はどんなものだったのであろうか。

1829年彼はオレーニンに自分一人では仕事を処理できないとして助手の採用を申請している。オレーニンの教育省への報告は「彼の部門の著しい図書の増加、公共図書館の仕事の辛さ、本人の老齢のため助手が必要である」と述べ、続けて彼の職務を次のように説明している。



＜当時のペテルブルグ公共図書館＞

「各所から受け入れられる図書の受領、これらの図書を書誌分類順に配架すること、利用者への図書の提供、返本受付と再配架、書架の整頓」その他クルイロフ自身が挙げているものに、印刷目録編成のためのカードの浄書の準備作業がある。この申請の結果ブイストロフが助手として採用された。彼は歴代のクルイロフの助手の中で最も有能であったといわれている。

それではクルイロフは自分の職務をどんなセンチメントで処理していたのであろうか。1828年検閲官セルビノビッチとの対話で「…我々は年老いましたが、若者はこの職務に身を捧げることを望みません。そしてそれは正当なことです。彼らにとってどんな見通しがあるのでしょうか。何もありません。いずれ我々は居なくなるでしょうが、後継者はすぐには見つからないでしょう。私は慰みに本を少し読み、他人には辛いと思えるかも知れませんが、気晴らしに本に文字を貼ったり、貼り変えたり、ということに慣れました。私は仕事を変えるつもりは毛頭ない。私が若ければ問題は別ですが。他の人のように能力が自分の成功を約束してくれるという希望を抱いて仕事をするつもりはありません。」また次のようにも述べている。「図書館で生活が保証されるようになるためには；働く人間であること、自分の職務に愛情を持って取り組むこと；この気でおれば自分の職務を果たすことは容易である；残る問題はほとんどない」こんな思いを抱きながら、彼は自分の官舎で家族もなく一人で暮らしていた。淋しさからか、彼は出窓に餌を撒き鳩を手なずけていて、部屋はその糞で白くなっていたという。彼は1841年72才で退職している。前述のソボリシヨフの回想はこの頃のことである。3年後1844年11月死去。享年75才。死因は肺炎であったが、大食漢であったが故に巷間長いこと胃病が原因とされていた。

彼の葬儀に皇帝の身内が一人も参列しなかったことを多くの人が不審に思ったという。一方彼の銅像建立の呼掛けに全国から基金が寄せられた。彼がこの二つの出来事を基に天国で一篇の寓話を語ったかどうか、それは神のみぞ知る。銅像はレニングラードの夏庭園にある。

(主として次の資料を参考にしました)

- Голубева, О. Д. Хранитель мудрости. М., Книж. палата, 1988. 271 p. 22 см.  
 Григорьев, Ю. В. История русского библиотековедения (1780–1860 гг.) в кн. Стодяров, Ю. Н. Ю. В. Григорьев. М., Книж. палата 1989. 222 p. 22 см.  
 Степанов, Н. Крылов. М., Молодая гвардия 1969. 270 p. 21 см.

## ◆ 資料紹介

## 藤田宏達名誉教授寄贈の

## 『無量寿経』の梵文写本

文学部教授 今 西 順 吉

本年3月の御退官に当り、藤田宏達名誉教授から本学附属図書館に『無量寿経』(Sukhāvativyūha)の梵文(サンスクリット語)写本2点が寄贈された。藤田名誉教授はこの写本をネパールで入手され、さらにこれとは別にマイクロフィルムなどで入手された30数点の写本とともに永く御研究になり、これらにもとづく『無量寿経』テキストの出版を目下準備されているところである。梵文写本を本学図書館が収蔵するのは初めてのことであり、図書館ではこれを「貴重書」に指定して大切に管理保存することとなった。そこでこの機会に紹介を兼ねて梵文写本について述べてみたい。

写本名はサンスクリット語(梵語)でSukhāvativyūhaと言うが、これに相当する漢訳『無量寿経』は『阿弥陀経』ならびに『観無量寿経』とともに浄土3部経と呼ばれる浄土教所依の経典として広く読まれて来た。そして『無量寿経』は『大無量寿経』とも、あるいは略して大経とも呼ばれ、これによく似た『阿弥陀経』は小経と名付けて区別している。梵語の原典は大経・小経ともにSukhāvativyūhaと称するので、漢訳に対応してそれぞれLarger Sukhāvativyūha, Smaller Sukhāvativyūhaと通称される。今回寄贈された写本は大経に相当するものである。なお『観無量寿経』の梵本はこれまで知られていない。

インド系の写本は古くはターラ(tāla 多羅樹)と呼ばれる棕櫚に似た樹木の葉(pattra 貝多羅)に多少の整形加工を施した短冊形のものを利用して来た。これを貝葉と呼んだ。これを数十枚重ねて左右に穴を開け、そこに紐を通して束ねるだけであった。従って材質は脆く崩れやすいので、極く古い写本は中央アジアなどで発掘されるだけである。その後棕櫚の葉に代わって紙が用いられるようになると貝葉よりも大きなものも使用され、穴も開けないようになるが、横長のこの形式そのものは踏襲されている。

梵語はインド語の古典語であり、学識ある人士の洗練された言語と見なされていた。例えばドラマの中で王やバラモンは梵語を話し、妃や召使その他は方言を使用している。仏教はその成立当時は布教にあたって各地の民衆が実際に使用している方言を採用した。しかしその後次第に仏典の梵語化が進んで、方言臭の強い独特の梵語を生み出した。これは音韻変化や語尾変化に方言の特徴が著しい。ただし方言の特徴の度合は経典によって相違がある。大乘経典はこのような仏教梵語で書かれており、『無量寿経』もその例外ではない。

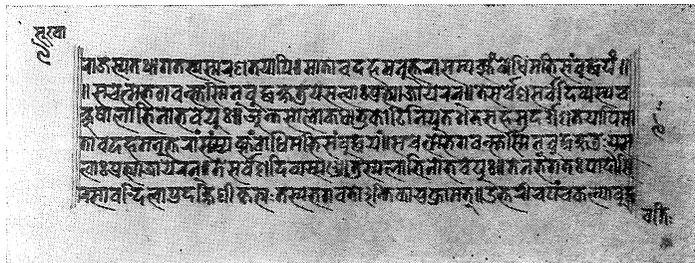
写本の書体は時代や地域によって異なる。此度寄贈された写本は両本ともに紙にネパール文字で書かれており、きれいで判読しやすい。そのうちの1本は23.5×8.8 cmの大きさで、1834年に書写されたという紀年があり、合計70枚ある。そして各葉には6行ずつ書かれている。他の1本は30.6×6.5 cmの大きさで、1885年の紀年が記され、全体で55枚あり、5行ずつ書かれている。これまでに知られている『無量寿経』の梵本はすべてネパールで発見されており、12世紀の写本が若干ある他はいずれも比較的近年のものである。

ところで、梵文『無量寿経』は日本における近代仏教学の成立と非常に密接な関係がある。日本において漢訳経典が果たした歴史的役割は計り知れないほど大きいですが、翻訳には原典対

する変容・改変が不可避であって、漢訳經典には書かれていて仏教の重要な教義として知られているにも関わらず、当該梵本には見当たらないような例も少なくない。従ってインド仏教本来の思想を知るためには原典が不可欠である。実際日本にも若干の梵本が伝えられていたけれども、明治以前におけるその研究は極めて僅かであって、漢訳經典の批判的研究に役立つものではなかった。それらの梵本はようやく明治になってから有名なイギリスのヴェーダ学者（宗教学者、言語学者でもあった）マックス・ミュラーによって『日本発見の梵文写本』という一連のシリーズとして出版され、世界に紹介された。その最初に『阿弥陀経』がある（1880年刊）。これは、円仁が9世紀に請来した梵本（悉曇文字で書かれている）を18世紀の慈雲尊者が研究・出版したものにもとづいている。日本に伝えられて永く保存されていた梵本に近代的な学問の照射が与えられた最初である。このほかにもミュラーは法隆寺などに伝わった非常に古い梵本によって『金剛般若経』（1881年）や『般若心経』（1884年）のテキストを刊行している。貝葉本を含むこのように古いこれらの梵本が日本に存在したという事実は世界に衝撃を与えたが、彼がこの写本を知ったのは日本から留学して師事していた南条文雄・笠原研寿の両師を通じてであった。そして、大経の梵本は日本には伝わってはいなかったけれども、彼はネパール写本によって1883年に『無量寿経』の梵本を出版した。これが世界における大経の最初の出版である。これら一連の出版は南条・笠原両師の協力がなければありえなかったであろう。

明治9年という開国間もない時期に二人の若い日本人学僧が渡英留学したのはヨーロッパの新しい仏教学を学ぶためであり、それは近代日本の仏教学・インド学の夜明けであったが、その最初に『阿弥陀経』と『無量寿経』が取り上げられたのである。ヨーロッパでは当時すでにインド・ネパールなどから大量の写本を組織的に集めており、二人は夢中でそれを研究・書写した。笠原師は途上半ばで病に倒れたが、南条師は明治17年の帰国後は梵語を教え、また梵本による大経・小経の『講録』を刊行した。こうして日本の仏教研究はそれまでの漢訳仏典のみによる研究から、梵語その他の言語で伝わる原典との比較研究に基礎を置く新しい仏教学の時代に入ることになった。以来百年が経過した。

現代はさらに新しい時代に入っている。命を削るような写経の苦しみは複写技術が解消し、居ながらにして写本のコピーを入手出来るようになった。またコンピューターは膨大なテキストのデータ処理を可能にした。それによってますます精密な原典研究が可能になった。しかし、実際問題として、コピーと写本は必ずしも同じものではない。コピーからは読み取れないものを写本は語り掛けることが出来る。しかしすでにネパール政府等は古い写本の国外持ち出しを禁止しており、今後梵文写本の原本の入手は困難である。此度寄贈された梵文写本を貴重本として大切に保管し永く記念とすることを期待したい。



## 遡及入力第1期計画が達成されました

北大では昭和61年3月に図書館専用機が導入され、日々受け入れた資料をオンラインで検索できるようになりました。さらに昭和62年に学術情報センターはじめ各方面のご支援により、以前の北大蔵書をデータベース化する「遡及入力事業」を開始しました。この3月、「とりあえず最近20年の蔵書を入力する」ことを目的とした「遡及入力第1期5年計画」が当初の予定より1年早く約53万冊を入力して終了しました。

第1期計画では入力対象資料として、①オンラインシステム導入と同時にカード目録を凍結した昭和61年4月以前に入受れた北大蔵書。②利用度を考慮し、まず全学の比較的新しいもの、最近20年に出版されたものを選びました。第1期計画による北大データベースへの登録冊数は以下のとおりです。

第1年次	95,601冊	図書館、教養分館の蔵書
第2年次	168,474冊	文系部局、図書館の蔵書
第3年次	150,906冊	自然系部局の蔵書
第4年次	112,115冊	自然系部局の蔵書、図書館の大型コレクション等
総合計	527,136冊	

現在北大図書総合目録データベースは113万に達しました。雑誌については全タイトルとその全体の所蔵巻号数(およそ60万冊相当)のデータができていますので、これも計算にいきますと、北大蔵書約280万冊のうち約60%がオンラインで検索できるようになりました。残る約111万冊の図書を入力すると蔵書の100%がデータベース化されます。

図書館では「全蔵書のデータベース化」を最終目的として遡及入力事業を今後も継続をすることとなり、第2期5年計画に着手しました。皆様の期待にそえるよう一層の努力をしたいと思えます。

〔遡及入力第1期計画における北大DBへの部局別登録冊数〕

本館：書庫	和書	52,417	農学部	和書	28,853
	洋書	23,626		洋書	7,515
：開架	和書	43,799	獣医学部	和書	* 1,423
	洋書	2,483		洋書	* 433
教養分館	和書	58,724	水産学部	和書	2,035
	洋書	2,027		洋書	63
文学部	和書	22,404	教養部	和書	1,363
	洋書	24,559		洋書	1,298
教育学部	和書	21,248	言語文化	和書	7,403
	洋書	4,400		洋書	14,442
経済学部	和書	16,190	環境科学	和書	5,486
	洋書	12,634		洋書	1,628
理学部	和書	12,678	低温研	和書	1,325
	洋書	12,109		洋書	810
医学部	和書	12,944	応電研	和書	2,664
	洋書	9,310		洋書	2,029
歯学部	和書	5,801	触媒セ	和書	604
	洋書	2,492		洋書	923
薬学部	和書	1,793	免疫研	和書	792
	洋書	411		洋書	497
工学部	和書	41,151	医療短大	和書	7,911
	洋書	13,040		洋書	1,528
			合計	和書	364,564
				洋書	162,522
			総合計		527,136

\* 獣医学部は作業の都合で平成3年度に入力したので合計には含まない

◆ 図書館統計 平成2年度

部 局 別 蔵 書 冊 数

(平成3年3月31日現在)

部 局 区 分	和 書	洋 書	合 計	備 考
附 属 図 書 館	499,655	389,366	889,021	法学部, 経済学部の一部を含む
教 養 分 館	119,046	69,769	188,815	言語文化部を含む
文 学 部	96,427	122,236	218,663	
教 育 学 部	72,365	27,876	100,241	
法 学 部	(68,027)	(122,305)	(190,332)	(附属図書館所蔵)
経 済 学 部	{ ( 1,280) 50,512	( 1,335) 33,146	( 2,615) 83,658	( " )
理 学 部	46,505	141,901	188,406	情報処理教育センター, 実験生物センターを含む
医 学 部	62,571	88,497	151,068	附属病院, アイソトープ総合センターを含む
歯 学 部	15,344	15,188	30,532	附属病院を含む
薬 学 部	5,385	14,788	20,173	機器分析センターを含む
工 学 部	174,417	143,056	317,473	
農 学 部	197,106	109,983	307,089	附属農場, 附属演習林を含む
獣 医 学 部	10,629	21,245	31,874	
水 産 学 部	74,711	46,663	121,374	
教 養 部	15,841	8,140	23,981	
言 語 文 化 部	(18,971)	(56,115)	(75,086)	(教養分館所蔵)
環 境 科 学 研 究 科	10,853	5,518	16,371	
低 温 科 学 研 究 所	7,128	16,477	23,605	
応 用 電 気 研 究 所	5,761	17,427	23,188	
免 疫 科 学 研 究 所	1,455	6,718	8,173	
触 媒 化 学 研 究 センター	3,229	10,958	14,187	
スラブ研究センター	980	11,428	12,408	
大型計算機センター	906	1,648	2,554	
事 務 局	1,824	156	1,980	保健管理センターを含む
医 療 技 術 短 期 大 学 部	19,874	3,133	23,007	
計	(27,261) 1,492,524	(85,509) 1,305,317	(112,770) 2,797,841	

## ○ 平成2年度年間受入： 図書冊数・雑誌種類数

区 分 局	図書受入冊数							雑誌受入種類数						
	和書			洋書			合計	和雑誌			洋雑誌			合計
	購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他		購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他	
附属図書館	6,231	1,467	17,179	4,281	353	21,912	51,423	294	1,896	—	424	500	—	3,114
教養分館	3,167	53	193	2,538	15	503	6,469	220	433	1	285	14	—	953
文学部	2,217	311	886	4,737	195	136	8,482	139	650	—	706	9	—	1,504
教育学部	2,130	—	325	419	—	155	3,029	274	682	—	197	11	—	1,164
法学部	(1,493)	(227)	(554)	(2,380)	(114)	(835)	(5,603)	(157)	(339)	—	(339)	(46)	—	(881)
経済学部	(1,098)	(182)	—	(1,233)	(88)	(14)	(2,615)	—	—	—	—	—	—	—
理学部	491	30	207	1,110	182	1,925	3,945	141	558	1	282	47	1	1,030
医学部	852	837	331	483	226	1,754	4,483	131	292	1	270	360	4	1,558
歯学部	329	12	330	135	1	579	1,386	272	610	—	711	177	2	1,772
薬学部	125	—	29	66	—	572	792	124	155	—	215	46	—	540
工学部	1,126	35	735	1,035	6	1,265	4,202	38	52	—	110	5	—	205
農学部	1,126	35	735	1,035	6	1,265	4,202	360	437	2	851	100	1	1,751
獣医学部	2,032	110	751	712	23	1,282	4,993	434	952	6	607	347	2	2,348
水産学部	137	6	40	186	2	231	602	53	45	—	135	60	—	293
言語文化部	823	52	445	125	41	906	2,392	203	660	3	264	438	2	1,570
環境科学研究科	(1,125)	(1)	(38)	(2,340)	(4)	(180)	(3,688)	(21)	(39)	—	(155)	(2)	—	(217)
低温科学研究所	355	—	77	168	—	231	831	43	81	1	128	36	—	289
応用電気研究所	94	—	118	55	—	413	680	24	378	7	98	223	—	730
免疫科学研究所	157	—	36	135	—	817	1,145	27	120	—	120	10	—	277
触媒化学研究センター	20	—	—	12	—	192	224	13	102	1	49	—	—	165
スラブ研究センター	10	44	26	57	32	214	383	17	1	—	42	13	7	80
大型計算機センター	195	5	30	3,271	33	407	3,941	7	144	1	226	59	1	438
医療技術短期大学部	4	—	—	69	—	—	73	36	33	2	55	—	—	126
合計	681	27	245	140	2	71	1,166	156	117	—	63	2	—	338
	(3,716)	(410)	(592)	(5,953)	(999)	(1,029)	(11,906)	(178)	(378)	—	(494)	(48)	—	(1,098)
	21,176	2,989	22,457	19,734	1,111	33,626	101,093	3,006	8,398	26	6,338	2,457	20	20,245

- ・〔部局：集計単位としての部局〕附属図書館には法学部、教養分館には言語文化部、理学部には情報処理教育センターと実験動物センター、医学部には附属病院とアイソトープ総合センター、歯学部には附属病院、農学部には附属農場と附属演習林、薬学部には機器分析センター、事務局には保健管理センターの分をそれぞれ含む。以下の統計においても同じ。
- ・〔その他〕は、雑誌を製本として受入たもの、および管理換で増となったもの=図書館の例では自然系バックナンバーのものとスラブ研からの「管理換」=がほとんどである。

○ 平成2年度附属 図書館利用数

(開館 287 日)

区 分 部 局		開架閲覧室		書 庫			参 考 閱覧室	北 方 資料室	語 学 演習室
		館 外 貸 出		館内閲覧 冊 数	館 外 貸 出				
		人 数	冊 数		冊 数	人 数	冊 数	利用者数	利用者数
学 生 所 属 部 局	文 学 部	2783	5309	5870	448	701	1377	417	113
	教 育 学 部	490	991		43	58	222	97	
	法 学 部	3236	6082		682	892	366	44	
	経 済 学 部	1253	2336		112	173	325	19	
	理 学 部	3350	6703		36	47	122	30	
	医 学 部	283	533		9	16	77	5	
	歯 学 部	359	717		1	1	18	3	
	薬 学 部	474	978		0	0	14	0	
	工 学 部	1279	2412		17	30	127	93	
	農 学 部	1186	2293		47	58	118	69	
	獣医学部	65	123		0	0	25	1	
	水産学部	20	50		0	0	22	0	
	教 養 部	4846	9456		293	416	394	407	
研究所ほか	129	262	0	0	127	65			
医療短期大	337	648	13	20	36	4			

区 分 部 局		開架閲覧室		書 庫			参 考 閱覧室	北 方 資料室	語 学 演習室
		館 外 貸 出		館内閲覧 冊 数	館 外 貸 出				
		人 数	冊 数		冊 数	人 数	冊 数	利用者数	利用者数
院 生	3215	7356	983	1552	4003	—	—	235	
教 官	1177	2637		1787	4868	—	—		
職 員	1351	9052		95	179	—	15		
学外利用者 (含放送大学)	293	721	2368	330	776	309	828	0	
利用者合計	26126	—	4845	5465	—	3679	2097	348	
利用冊数合計	—	58659	9221	—	12238	766 <sup>1)</sup>	1444 <sup>2)</sup>	379	

註 1) 国連資料・OECD資料・EC資料・図書館学資料及び参考図書(一夜貸出)  
 2) 館外貸出冊数のみ。  
 3) 参考閲覧室、北方資料室の学内利用者は学生欄にまとめた。

## ○ 平成2年度 教養分館利用数

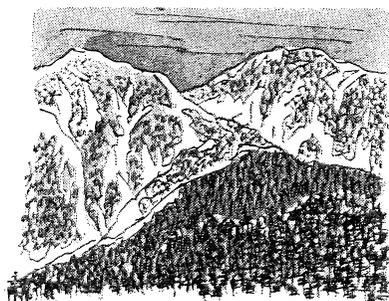
(開館279日)

区 分 部 局	開架図書室 (館外貸出)		語学演習室 (館内利用)		ビデオ視聴室 (館内利用)	
	人 数	冊 数	人 数	巻 数	人 数	巻 数
文 学 部	870	1,599	65	89	33	36
教 育 学 部	89	156	2	2	6	8
法 学 部	369	626	31	34	20	23
経 済 学 部	267	430	9	12	15	16
理 学 部	1,433	2,606	14	15	48	60
医 学 部	240	394	19	19	16	19
歯 学 部	112	184	0	0	19	23
薬 学 部	334	621	0	0	2	2
工 学 部	1,257	2,128	82	102	67	72
農 学 部	230	438	20	31	9	10
獣 医 学 部	116	212	4	6	13	16
水 産 学 部	9	17	0	0	2	5
教 養 部	18,913	32,339	359	407	1,020	1,176
医 療 短 期 大	182	343	2	2	7	8
放 送 大 学	3	5	0	0	0	0
院 生	683	1,303	188	303	87	104
教 官	305	590	14	14	32	40
職 員	607	1,085	1	5	1	1
学 外 利 用 者	41	75	0	0	0	0
利 用 者 合 計	26,060	45,151	813	1,041	1,397	1,619

## 館外貸出・分類別

(教養分館)

000 総 記	7,322
100 哲 学	2,407
200 宗 教	231
300 社 会 科 学	4,036
400 語 学	694
500 純 粋 科 学	17,486
600 応 用 科 学	2,082
700 芸 術	1,133
800 文 学	5,204
900 地 理・歴 史	4,333
雑 誌	88
そ の 他	135
合 計	45,151



○ 平成2年度 文献複写・相互利用統計

I. 国内： 附属図書相互利用掛を経由して学外へ依頼した件数 (国立・私立とも)

申込部局	附属 図書館	文学部	法学部	教 育 部	経 済 部	理学部	医学部	歯学部	農学部	獣 医 部	言 語 文 化 部
件 数	2	91	421	10	123	6	0	13	60	6	96
申込部局	環 境 学	低温研	応電研	触媒研	免疫研	医 療 大	工学部	スラ研	大 計	演習林	合 計
件 数	178	0	133	33	24	127	1	8	21	6	1,359

II. 国内： 新方式 (国立大学等図書館相互における文献複写) で各部局図書掛が受付・依頼を行った件数

部 局	附 属 図 書 館	文	教	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	低温	合計
受 付	1,630	373	163	0	1,125	1,390	63	209	980	1,451	321	274	177	8,156
依 頼	964	348	236	5	534	919	116	345	633	466	171	250	49	5,036

III. 国外への依頼件数 (参考調査掛)

英	米	ソ 連	西 独	カナダ	オランダ	フランス	イタリア	その他	合 計
252	183	50	46	21	17	12	11	20	612

IV. 図書館相互貸借 (相互利用掛) ○他館への貸出 819 冊 ○他館からの借用 282 冊

V. 附属図書館電子複写・マイクロ業務実績 (館内分を除く) (相互利用掛)

複写室 申込者	件 数 (件)	複写論文点数 (点)	処 理 枚 数		
			総 数	内 容	
				電子複写 (枚)	リ ー ダ ー プ リ ン タ ー (枚)
学 内 者	209	327	4,390	2,444	1,946
学 外 者	2,581	3,994	41,238	40,567	671
合 計	2,790	4,321	45,628	43,011	2,617

VI. 参考質問 (参考調査掛)

所在調査	書誌調査	事前調査	利用指導	情報検索	合 計
2,421	504	390	1,035	237	4,587

○ 平成 2 年度 CLARK 統計

端 末 機 設 置		図書データベース登録数					雑誌データベース登録数			システムを 使用しての貸出		検索回数 1 台平均 ③	
部 局 名 ①	台数	年間増加	累 計			学術情報 センター への所蔵 登録累積 (91.4.1)	所蔵雑誌 純誌数	受入雑誌 延べ誌数	製本単位	研究室	一般貸出	利用者用	業務用
			合 計	和 書	洋 書								
附属図書館	23	16,648	221,700	139,790	81,910	164,090	19,968	2,411	245,859	33,953	58,672	29,581	16,061
遡及入力	15	79,151	② —	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,356
法学部	1	☆	☆	☆	☆	☆	☆	911	☆	11,305		10,107	
スラブ研	1	1,550	1,368	34	1,334	☆	☆	297	☆	1		4,256	
経済学部	2	☆	☆	☆	☆	☆	2,448	1,032	5,220	40,288		13,004	13,947
教養分館	7	6,494	119,070	84,202	34,868	66,747	1,146	956	9,741	7,988	45,151	32,982	7,922
教養部	1	△	△	△	△	△	△	△	△	6,055		5,870	
言語文化	1	△	△	△	△	△	△	△	△	3,061		2,024	
文学部	6	6,324	81,972	35,775	46,197	55,898	2,421	1,512	6,477	88,468		10,248	4,188
教育学部	3	2,441	39,211	31,969	7,242	26,030	1,899	1,319	3,534	16,001		6,589	6,500
理学部	5	1,764	32,282	13,584	18,698	21,347	3,968	1,843	8,524	35,655		11,808	3,223
医学部	5	2,901	33,556	19,783	13,773	21,690	4,474	2,090	10,115	16,183		9,923	5,720
歯学部	2	487	10,656	7,908	3,287	6,316	861	621	2,685	13,355		5,680	9,094
薬学部	2	186	3,652	2,643	1,009	2,617	357	259	3,096	1,534		8,213	3,333
工学部	7	2,799	67,796	49,754	18,042	32,523	3,823	2,319	13,313	58,892		18,285	4,227
農学部	7	2,347	50,499	39,074	11,425	27,952	5,373	2,407	9,628	49,984		11,783	7,593
獣医学部	2	371	1,616	688	748	1,212	930	320	1,580	1,619		1,788	2,666
水産学部	4	4,287	10,329	9,392	937	7,124	3,402	1,790	6,983	4,635		4,752	3,169
環境科学	1	658	10,061	7,599	2,462	7,896	393	310	3,616	15,091		4,319	
低温研	1	132	2,979	1,865	1,114	2,380	1,181	729	2,546	247		1,182	
応電研	1	363	6,669	3,712	2,957	4,519	429	171	2,323	5,198		5,217	
触媒研	1	300	2,365	755	1,610	2,037	200	80	1,259	9		3,117	
免疫研	1	27	1,535	726	809	1,011	117	66	1,063	1,766		723	
医療短大	1	969	14,994	12,964	2,030	10,444	350	307	2,351	4,513		5,587	
北海道教育大学	12	20,034	49,530	43,295	6,235	—	10,514	—	—	49,533		8,377	
合 計	112 台	150,233 冊	762,331 冊	505,235 冊	257,096 冊	461,833 件	41,768誌 延べ誌数 78,321誌	21,755誌 純誌数 14,384誌	338,913 冊	495,304 冊	103,793 冊	16,540 6,575 総合計 1,109,449回	7,610

注記 ①部局名＝附属図書館には大計センターの数を含む。☆欄は附属図書館に、△欄は教養分館に含まれる。スラブ研，経済学部で処理した資料は附属図書館に移管される。

②遡及入力の累計 490,186 冊は各部局の累計に含まれる。

③蔵書検索画面で検索語を入力し実行キーを押した回数。(但し，10 月分は保存 MT の媒体障害により含まれていない。)

◆ ニ ュ ス

○ 「ハンス・ティーム文庫」の収集が完了しました

平成2年度の全国共同利用図書(大型コレクション)購入経費として要求していた「ハンス・ティーム文庫」の第4期分が認められ、このたび搬入を終えました。この第4期分の購入で、昭和54年度の第1期分に始まる当文庫の収集は全て完了しました。

この文庫は、ハンス・ティーム氏(ドイツ・フライブルグ大学名誉教授)が生涯を通じて収集した「ドイツ法制史・法哲学・法思想学・比較法」等、広く基礎法学の分野にかかる貴重な資料で、図書・雑誌・抜刷など総数一万点以上にのぼるものです。

この文庫実現のため長年にわたりご尽力をいただいた関係各位に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

第1期から第4期の購入の概略は次のとおりです。

- 第1期 ドイツ法制史および実定法関連コレクション
- 第2期 基礎法学および一般史関連コレクション
- 第3期 近世私法史および法学史関連コレクション
- 第4期 ゲルマン法史および中世法史関連コレクション

○ 附属図書館書庫内図書のオンライン貸出が開始されました

附属図書館では開架閲覧室の資料および書庫内資料のうち製本雑誌の貸出をすでにオンラインで行っておりますが、この6月1日から書庫内の“図書”についても書誌データの入力と資料番号レベルの張られている分のオンライン貸出処理を開始しました。

オンライン貸出処理の対象となる図書は、電算機システムが導入された昭和61年3月以降の蔵書と第1期遡及入力事業での入力対象とした最近20年間に出版された図書のかなりの部分です。これらは貸出統計から見て利用度が極めて高いものですので、借用証に書名や氏名を手書きするという煩わしさをなしに貸出利用ができることになると思われます。

なお、事前に留意しておいていただく点がありますので以下に列举します。

- 1 図書館利用証を所持していなければオンライン貸出処理は出来ません。図書館ご利用の際は図書館利用証(学生の方は学生証)をご持参ください。
- 2 貸出期限切れ図書がある場合には当該図書が返却されるまで、新たな貸出処理は出来ない仕組みになっていますので返却期限・貸出冊数は厳守してください。

○オンライン「一般貸出」の貸出冊数・返却期限は以下のとおりです。

- |               |      |       |
|---------------|------|-------|
| (1) 教官・名誉教授   | 100冊 | 90日以内 |
| (2) 大学院生(研究生) | 50冊  | 60日以内 |
| (3) 本学の学生     | 10冊  | 15日以内 |
| (4) 教官を除く職員   | 10冊  | 30日以内 |
| (5) 館長が許可した者  | 10冊  | 30日以内 |

○なお、当該研究室・教官等の予算で備えた資料は「研究室貸出」とすることができません。この場合は、貸出期間は1年、冊数に制限はありません。

(昭和61年3月26日 第126回図書館委員会申合せ)

○ 附属図書館書庫の資料の配置を一部移動しました

現在図書館では年々資料が増えたため手狭になって来た部分の調整と、図書館と経済学

部との図書業務の部分統合に伴う資料の搬入のため書庫資料の部分的再配置作業を行っています。

昨年春から書庫資料の移動作業が続き利用者の皆様にはご迷惑をおかけしていることと思いますが、今しばらくの間ご協力ください。

書庫内に掲示物で案内をしておりますが、おわかりにならない点があればカウンター掛員にお訪ね下さい。以下に移動した主な資料についてお知らせ致します。

新聞（縮刷版のない原紙）	東書庫 1 層→5 階新聞保存スペースへ集中配架
個人文庫（内村文庫はそのまま）	1 層→東書庫 1 層
経済学部からの和書	4 層→東書庫 1 層
有価証券報告書	5 層→東書庫 1 層
府県統計書	5 層→東書庫 1 層
法令全書	5 層→4 層
国勢調査	5 層→4 層
経済資料・年鑑類	5 層→東書庫 1 層
国・市町村統計年鑑類	5 層→4 層

#### ○ 附属図書館で Medline CD-ROM を見るができます

MEDLINE オンライン検索は DAILOG 社が提供していて、現在図書館でも利用できます。ただしこの場合検索料がかかりますし、料金は校費に限られているので学生は利用できませんでした。今回当館が購入した CD-ROM によれば検索料がいりませんし、学生も利用できます。

場 所： 参考閲覧室〔附属図書館 2 階〕

利用時間： 平日は 9:00-17:00, 土曜日は 9:00-12:30

あらかじめ電話 (2973, 4107, 3165) で他の人が使用していないかどうかを確かめてから来館すると確実です。

なお、検索は備え付けのマニュアルをご覧になってご自身でお願いします。(職員による代行検索はしておりません。)

Medline は EMBACE と並ぶ医学文献のデータベースで、アメリカの National Library of Medicine で作成された冊子体の Index Medicus に対応しており、さらに Index to Dental Literature, International Nursing index をも含んでいます。

検索の有効分野は、医学系はもちろんのこと、歯学、薬学、微生物学、生化学、看護学など。検索項目としては、Index Medicus のキーワード、自然語（論文タイトルに使われている用語）、著者名、雑誌名、CAS のレジストリー No. などが利用でき、ヒットした文献の英文抄録の打ち出しも可能です。今回購入したのは 1985 年以降のもので、今後最新のデータは月 1 回更新されます。

#### ○ CLARK 端末の部分再配置について

このたび CLARK システムの専用端末の部分配置を行いました。これは端末 15 台を使用して行った週及入力第 1 期計画の完了を契機にその内の 6 台をシステムの使用状況等を考慮して各部局へ再配置することにしたものです。平成 3 年 4 月から下記の部局等に各 1 台増設となりました。

新配置部署 図書館（学術情報掛）、教養分館（情報管理掛）、スラブ研究センター

医学部（図書整理掛）、大学院環境科学科、応用電気研究所、医療短期大学

○ 冊子「DDC 19 版編集者序論」について

榆蔭誌上で「DC 19 版勉強会へのお誘い」として紹介させていただきましてから、随分時が経ちましたが上記表題の冊子となりましたのでお知らせ致します。

当初はプログラム学習入門書 An introduction to the nineteenth edition of the Dewey Decimal Classification, by C. D. Batty を手にスタートしたのですが訳出が終わりましても不明な箇所があり、編集者序論を理解した上で見直すことになりました。この様なことで「DDC 19 版編集者序論」が先に冊子となりました。上記入門書も早い時期にまとめる予定です。

この冊子を希望される方は「北大 DC 19 勉強会」(申込先: 目録情報掛・大垣, 教養分館情報管理掛・午来)までご連絡下さい。

尚, 月2回(火曜日)ほど勉強会を行っています。入門書が冊子となりましたら, 次のステップに歩み出すことを考えております。どうぞ御参加下さい。(北大 DC 19 版勉強会)

○ サハリン歴史文化遺跡保存協会から感謝状

さきごろ, 全ロシア歴史・文化遺跡保存協会サハリン支部から当館の北方資料室に文献調査等に関して写真のような感謝状が送られてきた。

1889年(明治22年)11月宗谷岬沖合でロシア軍艦の遭難があった。この軍艦クレイセロック号は当時サハリンの海豹島のオットセイ群集地を警備中にアメリカの密猟船を発見し, その乗員たちをウラジヴォストクに移送する途中事故に遭ったもので, 翌1890年サハリンのチェルペニア岬の近くに遭難記念碑が建てられた。その後日本領時代に燈台設置のため記念碑は不明になっていたが, 最近それが発見され再建するに際し日本資側資料を北大図書館に照会してきた。北方資料室ではこの遭難事件ついて, クレイセロック号の探索に協力した函館支庁外事課通訳小嶋倉太郎氏の資料やロシア軍艦の残骸写真のコピーなどを添えて回答を送った。これに対して再建除幕式の写真とともに感謝状が送られてきたもので, ここにも近年のソ連におけるペレストロイカの一端が感じられる。(秋月記)



○ 附属図書館及び教養分館で現在継続して受け入れている外国語新聞リスト

(平成3年6月現在)

〔本 館〕

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 Thn Asian Student        | 5 Frankfurter Allgemeine |
| 2 Asahi Weekly             | 6 The Free Chine Journal |
| 3 The Chgnu-Ang Herald     | 7 The German Tribune     |
| 4 Foreign Affairs Bulletin | 8 Herald Tribune         |

- |                        |   |
|------------------------|---|
| 9 Izvestiia            | 21 T. L. S. (Times Literary Supplement) |
| 10 The Japan Times     | 22 Yugoslav Life                        |
| 11 Malaysian Digest    | 23 Die Zeit                             |
| 12 Le Monde            | 24 朝鮮時報                                 |
| 13 Neues Dsutschland   | 25 人民日報                                 |
| 14 New Spot            | 26 光明日報                                 |
| 15 New York Times      | 27 労働新聞                                 |
| 16 Pravda              | 28 東亜日報                                 |
| 17 The Pyongyang Times | [教養分館]                                  |
| 18 Romanian News       | Japan Times                             |
| 19 The Scientist       | Asahi Evning News                       |
| 20 The Times           | Guardian Weekly                         |

## ◆ 刊行物案内

### 「明治大正期北海道写真目録」

附属図書館北方資料室には、明治初年から大正期にかけての北海道の写真が多数所蔵されています。その多くは当時の北海道の行政機関であった開拓使および北海道庁が、開拓事業の進展を記録するために撮影したものです。それらの写真は、主として昭和12年に他の資料とともに北海道庁から寄託を受けたものですが、そのほかにも札幌農学校以来北大図書館に所蔵されてきた古写真がかなりの割合を占めています。

これらの写真は、従来から道内の市町村史編集者や北海道の各分野の歴史研究者たちによって頻繁に利用されてきました。しかし近年ではとくに写真史の草創期における開拓使時代の写真が全国的に注目されるようになり、北海道はもとより全国のマスコミ、出版関係などによる利用も少なくありません。北方資料室ではこれまで地域別、年代順に配列した写真の仮目録によって利用者の依頼に対処してきましたが、このたび標記の目録を編集刊行したのは、利用者自身による写真選択を容易にするためです。目録の版型はB5版よりやや幅広のAB版、本文309ページで、その中には北海道のほか樺太、千島などの写真も含み、「附録I」として北海道大学沿革写真（但し北海道帝国大学時代まで）が別立てとなっています。附録としては、そのほかにも北方資料室所蔵の「印刷アルバム」や「絵はがき」を収録しましたが、それは明治初年にウエイトをもつ北大写真コレクションの欠けた部分を補うためです。

この目録の刊行によって写真の利用がさらに増えることが予想されますので、北方資料室では原写真保存のためにすでに大部分の写真の6×7ネガ・フィルム作成と6ツ切版の複製を完了しており、利用は複製写真によることにしています。但し原写真からの複写を希望する人は、業者（当館が紹介する）を通じてネガ・フィルムからの引伸し写真を入手することもできます。北方資料室では引続きこの目録中の主要な写真を収録した写真集の編集を進めており、それができればこの目録と相俟って写真の利用は著しく便利になるでしょう。

◆ 本学教官著作物 (本館・分館受贈分)

本学教官の方々から附属図書館に下記の著作図書をお寄せいただきました。本分館蔵書として永く保存し利用に供させていただきます。ありがとうございます。

〔本 館〕

○名 誉 教 授

- 和 田 謹 吾 マイクロ版論文集『夏目漱石』(観白亭叢刊第七) 私家版 1991  
橋 本 清 大陸は移動しない 防災工学研究所 1989  
日本の誕生 防災工学研究所 1990

○文 学 部

- 田 中 彰 松陰と女囚と明治維新 (NHK ブックス) 日本放送出版協会 1991  
小 山 皓一郎 改訳トルコ史 (文庫クセジュ) 白水社 1990

○教 育 学 部

- 逸 見 勝 亮 師範学校制度史研究 北海道大学図書刊行会 1991

○法 学 部

- 杉 原 高 嶺 国際裁判の研究 有斐閣 1985  
海洋法と通航権 日本海洋協会 1991  
長谷川 晃 権利・価値・共同体 (法哲学叢書2) 弘文堂 1991

○経 営 学 部

- 眞 野 脩 バーナードの経営理論 文眞堂 1987  
眞 野 脩 (訳) 組織と管理 (C. I. バーナード著, 飯野春樹監訳) 文眞堂 1990  
米 山 喜久治 適正技術の開発と移転 文眞堂 1990  
関 口 恭 毅 情報システム設計・開発入門 近代科学社 1990

○医 学 部

- 矢野目雅子/小林 博 (共訳) ガイドブック上手に老いるには (F. セルビー/E. グリフィス著)  
岩波書店 1991

○農 学 部

- 臼 井 晋 現代の農業市場 ミネルヴァ書房 1990  
梅 田 安 治 御雇外国人の土地改良論 (農業土木古典専集5) 日本経済評論社 1991  
黒 柳 俊 雄 Economic Effects of the Agricultural Policies in Japan. Hokkaido University  
press 1991

○保険管理センター

- 木 下 眞 二 Conceal de Bugeminy, Irregular Parasystole 北海道大学 1991

○附 属 図 書 館

- 近 藤 潤 一 玄のいる風景——「無畔」私注 響文社 1991  
秋雪 (「俳句研究」句集シリーズ第Ⅱ期8) 富士見書房 1991

○北海道大学ミックス研究会 北海道明日への挑戦 楽遊書房 1991

〔教 養 分 館〕

- 逸 見 勝 亮 師範学校制度史研究 北海道大学図書刊行会 1991

◆ 会 議

第 145 回 図 書 館 委 員 会 <平成 3 年 3 月 14 日 (木)>

(議 題)

1. 平成 4 年度概算要求事項について

2. 平成3年度遡及入力の方針について
3. 北海道大学附属図書館貴重図書等の指定及び取扱いに関する要領(案)について

(報告事項)

1. 文系・理系部局図書館委員との懇談会について
2. 学内共同利用逐次刊行物叢書類について
3. 大型コレクションの予算配当について
4. 平成2年度学内共同利用自然系外国雑誌の返戻額について
5. 図書館施設の改修について
6. 閲覧個室利用者の募集について
7. 書庫内図書資料のオンライン貸し出しについて
8. CD-ROMの購入について
9. 端末機器の再配分について
10. 図書館業務のHINES対応について
11. 遡及入力の結果報告について

第104回 教養分館委員会 <平成2年11月20日(火)>

(議題)

1. 教官選定図書について
2. 参考図書の補充について

第105回 教養分会委員会 <平成3年4月23日(火)>

(議題)

1. 平成2年度教養分館図書費決算について
2. 平成3年度教養分館図書費要求額(案)について
3. 資料等選定小委員会(仮称)委員の選出について

平成2年度国立大学附属図書館事務部長会議 <平成3年1月30日(木)>

(協議事項)

1. 「図書館学」試験合格者の採用の改善について
2. 週40時間勤務制への対応について
3. 学術情報センター目録システムの時間延長について
4. 図書館建築における今後の課題について
5. 国立大学図書館協議会分科会における提案議題の効率的な審議について
6. 部長会議における承合事項の処理について
7. 大学図書館の施設、設備の今後における検討問題について
8. 学内LANの構築に当り図書館が果たす役割について
9. 「教育・研究活動の事業を行う公企業」としての国立大学活動に役に立つ附属図書館の運営について
10. 文献複写をめぐる法的取扱いの改善について
11. その他
  - (1) 当面の諸問題について
  - (2) 文献複写サービスと著作権について

(承合事項)

1. 図書館基準面積の算出について
2. 平成元年度附属図書館予算(経常経費)について

第 23 回北海道地区国立大学図書館協議会 <平成 3 年 4 月 18 日 (木), 19 日 (金)>

当番館：北見工業大学附属図書館

(協議事項)

1. 第 39 回国立大学図書館協議会総会について
2. 北海道大学図書館職員講演会について
3. 平成 3 年度目録講習会 (地域講習会) について
4. 「第 38 回国立大学図書館協議会総会関係」について
5. 次期当番校について

◆ 図書館委員会委員及び教養分館委員名簿

○ 図書館委員会委員名簿

平成 3 年 6 月 30 日現在

部 局	官 職	氏 名	任 期	部 局	官 職	氏 名	任 期
文 学 部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 農学部	館 長	近 藤 潤 一	平成5.3.31	獣医学部	教 授	斎 藤 昌 之	平成3.7.31
	分館長	東 出 功	平成5.3.31	水産学部	〃	高 間 浩 藏	平成4.4.30
	事務局長	田 村 誠		教養部	助 教授	鈴 木 敏 夫	平成5.3.31
	学生部長	丹 保 憲 仁	平成5.3.31	〃	〃	高 橋 世 織	平成4.3.31
	教 授	青 柳 謙 二	平成4.3.31	言語文化	〃	西 堀 ゆ り	平成5.3.31
	〃	逸 見 勝 亮	平成4.3.31	環境科学	教 授	山 村 悦 夫	平成5.5.27
	〃	古 坂 誠	平成4.3.31	低温研	〃	芦 田 正 明	平成5.3.31
	〃	石 坂 昭 雄	平成5.3.31	応用研	〃	伊 福 部 達	平成4.9.30
	〃	石 川 健 三	平成5.3.31	免疫研	〃	菊 池 九 二 三	平成4.3.31
	〃	大 里 外 譽 郎	平成4.3.31	医 病	〃	山 下 格	平成4.9.15
助 教授	太 田 守	平成4.3.31	触 媒 研	〃	岩 本 正 和	平成5.3.31	
教 授	濱 田 辰 夫	平成4.3.31	スラブ研	助 教授	望 月 喜 市	平成5.3.31	
〃	深 井 一 郎	平成4.5.31	医療短大	教 授	鈴 木 重 統	平成5.3.31	
〃	霜 鳥 茂	平成5.3.31					

○ 平成 3 年度 教養分館委員名簿

平成 3 年 4 月 23 日現在

学 科	官 職	氏 名	任 期	部 科	官 職	氏 名	任 期
西 洋 史	教 授	東 出 功	平成5.3.31	数 学	助 教授	前 田 芳 孝	平成5.3.31
日 本 文 学	助 教授	高 橋 世 織	平成4.3.31	英 語	〃	竹 本 幸 博	平成4.3.31
政 治 学	教 授	川 人 貞 史	平成4.3.31	体 育	〃	鈴 木 敏 夫	平成5.3.31
物 理 学	助 教授	兼 古 昇	平成5.3.31				

委員以外の出席者 (言語文化部 図書委員長)

学 科	官 職	氏 名	任 期
英 語	助 教授	西 堀 ゆ り	平成4.3.31

## ◆ 人 事 往 来

○退 職		
宮 丸 弘 子	(情報管理課図書受入掛)	2. 12. 31
渡 部 文 夫	(工学部総務課図書整理掛)	3. 3. 31
○転 出		
輸 木 安 雄	弘前大学附属図書館情報サービス課長 (情報管理課課長補佐)	3. 4. 1
平 松 昭 雄	釧路工業高等専門学校会計課出納係長 ( // 会計掛主任)	//
菅 原 英 一	旭川医科大学教務部図書課整理係長 ( // 目録情報掛)	//
高 崎 仁 雄	旭川工業高等専門学校庶務課図書係長 (工学部総務課図書整理掛)	//
○採 用		
松 尾 博 朋	工学部図書整理掛	3. 4. 1
佐々木 圭	農学部 //	//
梶 原 茂 寿	応用電気研究所会計掛	//
○転入・配置換		
櫻 庭 恒 彌	情報管理課図書受入掛長 (医学部図書整理掛長)	3. 4. 1
山 口 國 雄	// 目録情報掛長 (情報サービス課参考調査掛長)	//
黒 田 泰 行	情報サービス課参考調査掛長 (情報管理課図書受入掛長)	//
佐 藤 清 一	// 相互利用掛長 (水産学部図書掛長)	//
関 根 正 宏	医学部図書整理掛長 (薬学部図書掛長)	//
山 下 洋 一	薬学部図書掛長 (旭川医科大学教務部図書課整理係長)	//
諏訪田 義 美	水産学部図書掛長 (旭川工業高等専門学校庶務課図書係長)	//
浅 野 賢 二	庶務部人事課研修掛主任 (情報管理課庶務掛)	//
長 尾 憲 子	情報管理課庶務掛主任 (免疫科学研究所庶務掛主任)	//
金 澤 文 雄	// 会計掛主任 (医学部付属病院管理課管理掛主任)	//
岸 本 一 志	// 目録情報掛 (応用電気研究所会計掛)	//
三 橋 修	情報サービス課資料サービス掛 (農学部図書整理掛)	//
三 浦 智	// 参考調査掛 (同・教養分館情報サービス掛)	//
佐 口 英 二	// 教養分館情報サービス掛 (歯学部図書掛)	//
鵜 澤 和 往	情報システム課学術情報掛 (工学部総務課図書閲覧掛)	//
竹 鼻 敏 治	// 情報処理掛 (同・学術情報掛)	//
山 田 良 江	教育学部図書掛 (工学部総務課図書整理掛)	//
富 本 壽 子	歯学部総務課図書掛 (工学部総務課図書閲覧掛)	//
小 山 千 恵 子	工学部総務課図書整理掛 (教育学部図書掛)	//
首 藤 佳 子	// // (農学部図書整理掛)	//
桑 野 勇 次	// 図書閲覧掛 (情報サービス課資料サービス掛)	//
落 合 典 子	// // (工学部共通講座)	//
丹 野 揚 子	// 機械系学科事務室 (情報サービス課資料サービス掛)	//
岩 本 攻	農学部図書整理掛 (情報管理課図書受入掛)	//

貸出回数頻度順リスト (本館開架閲覧室：平成2年度)

本館開架閲覧室には学生用学習図書を中心に約 63,000 冊の図書が配架されている。これらを貸出回数順にリストアップしてみた。(回数：貸出回数，冊数：備え付け冊数)

順位	書名	著者・編者等	出版社	回数	冊数
1	生化学	L.ストレイヤー	東京化学同人	98	12
2	有機化学	R.T.モリソン 他	東京化学同人	56	8
3	量子力学	メシア	東京図書	50	5
4	有機化学	J.D.ロバーツ 他	東京化学同人	45	7
5	量子力学	小出昭一郎	裳華房	41	4
5	固体物理学入門	キッテル	丸善	41	4
7	眠狂四郎無頼控	柴田錬三郎	新潮社	39	7
8	固体物理学入門	キッテル	丸善	37	5
8	物理化学	G.M.バロー	東京化学同人	37	4
10	無機化学	F.A.コットン 他	培風館	35	4
11	X線回折要論	カリティ	アグネ	34	5
12	遺伝子の分子生物学	J.D.ワトソン 他	トッパン	33	4
13	物理化学	W.J.ムーア	東京化学同人	32	4
14	刑法概説	大塚 仁	有斐閣	31	4
14	無機化学	コットン, ウィルキンソン	培風館	31	4
16	ノルウェイの森	村上春樹	講談社	30	2
17	大学演習熱学・統計力学	久保亮吾編	裳華房	29	3
17	固体物理学入門	キッテル	丸善	29	2
19	銀河英雄伝説	田中芳樹	徳間書店	28	10
19	遺傳子	B.レーウィン	東京化学同人	28	2
21	ダンス・ダンス・ダンス	村上春樹	講談社	27	2
21	新MS-DOS入門	林晴比古	日本ソフトバンク	27	3
23	生化学	E.E.コーン 他	東京化学同人	25	2
23	有機化学	R.T.モリソン	東京化学同人	25	3
25	細胞の分子生物学	B.アルバート 他	教育社	24	4
25	憲法30講	中村陸男	青林書院	24	2
25	債権総論	遠藤浩編 他	有斐閣	24	2
25	演習憲法	芦部信喜	有斐閣	24	2
29	行政法概説	杉村敏正編	有斐閣	22	3
29	The Feynman lectures on physics	R. P. Feynman 他	Wesley	22	3
31	有機化合物のスペクトルによる同定法	R. M. Silverstein	東京化学同人	21	2
31	詳解力学演習	後藤憲一編 他	共立出版	21	3
31	量子力学：非相対論的理論	エリ, ランダウ 他	東京図書	21	2
31	講座憲法訴訟権	芦部信喜編	有斐閣	21	3
31	分析化学の理論と計算	芦部信喜編	有斐閣	21	2
31	分析化学の理論と計算 改訂増補版	分析化学研究会	広川書店	21	2
31	薔薇の名前	ウンベルト, エーコ	東京創元社	21	2
31	世界名詩集大成	呉 茂一編 他	平凡社	21	7
39	物理化学	アトキンス	東京学化同人	20	2
39	薬理学	伊藤 宏	栄光堂	20	2
39	息子たちと恋人たち	ロレンス	岩波書店	20	3
39	担保物権	遠藤浩編 他	有斐閣	20	2
43	電磁気学	平川浩正	培風館	19	3
43	量子力学	金沢秀夫	朝倉書店	19	3
43	量子力学	朝永振一郎	みすず書房	19	2
43	小生理解	広重力 他	南山堂	19	3
43	電磁気学演習	砂川重信	岩波書店	19	1
43	固体電子論概論	アシュクロフト, マーミン	吉岡書店	19	2
43	手形・小切手	大塚龍児 他	有斐閣	19	2
43	文学部唯野教授	筒井康隆	岩波書店	19	1
51	代数入門	東郷重明	サイエンス社	18	1
51	量子力学演習：シッフの問題解説	三枝寿勝 他	吉岡書店	18	1
51	古典力学	ゴールドスタイン	吉岡書店	18	2
51	Play the C：初級C言語講座	林晴比古	日本ソフトバンク	18	2
51	電磁気学演習：大学課程	若桑光雄	昭晃堂	18	2
51	権素関数	遠藤浩	有斐閣	18	2
51	複素関数	表 実	岩波書店	18	1
51	詳解物理応用数学演習	後藤憲一編 他	共立出版	18	1

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん) 通号 82号  
 平成3年(1991年)7月1日発行 発行人 附属図書館事務部長 宮島 太郎  
 編集事務 宇野弘純・岡田 敏・黒田泰行・藤島 隆・吉竹 忍・片山俊治・  
 佐藤依理子・松本礼一・斉藤寿美子・坪田千江子・吉田恭子  
 発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北8条西5丁目 716-2111 (2967)  
 印刷所 文栄堂印刷所 札幌市中央区北3条東7丁目 231-5560・5561